

小諸市誌 歴史篇 (三) 近世史 目次

表表紙の内側 慶長期の佐久地方古図(カラー)

裏表紙の内側 寛文十年小諸城下町屋敷割図(カラー)

発刊のことば……………小諸市長 塩川忠巳……………1

まえがき……………小諸市誌編纂委員長 井出文雄……………3

例言…………………………5

目次…………………………7

第一章 近世封建社会の変遷(口絵カラー四頁)……………13

第一節 徳川政権の成立……………17

一、近世のはじまり……………17

芦田信著と戦国時代 豊臣政権と関ヶ原役

二、幕藩体制の確立……………22

江戸幕府成立と政策

第二節 小諸領主の治世……………28

一、牧野氏以前……………28

二、牧野氏時代……………65

仙石秀久 仙石忠政 大坂の陣 徳川忠長

松平憲良 青山宗俊 酒井忠能 西尾忠成

石川乗政・乗紀父子

元禄以降の小諸藩 牧野康重 牧野康周

牧野康満 牧野康陸 牧野康備 牧野康長

牧野康明 牧野康命 牧野康哉 牧野康済

江戸屋敷 版籍奉還と廃藩置県

付表……………128

歴代小諸藩主一覽 小諸藩歴代藩主系図

牧野氏系図 小諸藩牧野家系図

小諸藩主牧野氏系譜一覽

三、幕府領と旗本領……………141

御影陣屋 旗本領

第三節 小諸藩のしくみ……………149

一、組織と家臣団……………149

職制 格式と家臣団 藩士の俸禄

武芸・兵法

二、行政と取締り……………168

行政機構 武家への取締 領民への取締

目次	181
第二章 藩政と農民（口絵カラー四頁）	181
第一節 土地と農民	185
一、検地・検見	185
太閤検地	185
寛永の検地	185
寛文の検地	185
二、地主と小作	199
本百姓と抱	199
地主層の成長	199
三、宗門改め	209
キリシタン禁制と宗門改め	209
宗門改め帳	209
四、林野・入会地	221
御林	221
入会地百姓林	221

第二節 年貢と農民	228
一、租税の種類	228
年貢と物成	228
二、小諸藩の租税	232
牧野氏以前の租税	232
牧野氏時代の租税	232
第三節 農村の開発	237
一、集落の移動	237
郷の成立	237
村々の成立と移動	237
二、用水・新田の開発	246
領内の用水と新田開発	246
御影用水	246
大沼用水	246

湧玉用水	女堰	267	
三、山論・水論	追分境訴訟	水論	267
南木山山論			267

第三章 街と村の成立としくみ（口絵カラー四頁）	283
-------------------------	-----

第一節 城下町の生活	287
------------	-----

一、武家屋敷町と町人町	287
城下町の成立	287
武家屋敷	287
町人町	287
二、町政と支配	320
町役人宿役人	320
町役人衆の仕事	320
三、町の生活	329
商人の町	329
生活と規制	329
奉公人	329

第二節 農村の生活	345
-----------	-----

一、農村の構成	345
戸口・人別	345
家族の構成	345
二、村役人と五人組	351
村方三役	351
五人組制度	351
同族団結仲間	351
村定	351
家法定書	351
三、農業経営	367
小百姓の経営	367
農業全書	367
四、農村の生活	372
きりもぐさ	372
きもの	372
のみくい	372
すまい	372

花の色 年中行事

第三節 身分制度 393

一、士農工商 393

徳川幕藩体制の確立 身分制度

二、身分差別の形成 397

「かわた」から「えた」へ 小諸町離の由来

荒堀部落の成立 荒堀部落の役割と反対給付

四ツ谷部落の成立 平原部落の成立 御影部落の成立

三、部落差別の諸相 411

差別戒名 部落の信仰 身分制度の強化

身分解放へのめざめ

第四章 産業の発達 (口絵カラー二頁) 415

第一節 農業の発達 417

一、田畑の耕作 417

稲作 畑作

二、身分秩序の確立と百姓の姿 422

村請制による支配 慶安の触書 貨幣と商売心

新田開発と農業技術の発達

三、商品作物の栽培 432

朝鮮人参 たばこ 木綿 菜種 養蚕
その他の作物 佐久鯉の歩み

四、山林経営 458

入会から留山へ 山林の保護育成 御巢鷹山(場)

山林検地と年貢 御林利用規定と国有林

五、小諸藩の殖産興業 473

青山宗俊の墾田事業 小諸藩の殖産興業

第二節 商工業の発達 479

一、手工業の発達 479

職業の分化 鍛冶 鉄砲鍛冶 刀鍛冶

職人の仲間組合 その他の手工業

二、商業の発達 502

商業発達の歴史的な基盤 小諸の商人道と気風

小諸藩と商人のかかわり 交通の要衝と物流の基地

元禄文化と小諸の町人 「小諸宿商人」考

御払米と流通 貯穀と貸付制 塩と魚の移入と流通

煙草問屋 硫黄の売捌 酒造

三、商圏・流通・中牛馬稼ぎ 552

小諸商人の商圏 信越両国間の流通

中牛馬稼ぎ 米価と物価

四、金融その他 570

貨幣制度 信用通貨 質屋 無尽・講

第五章 交通制度（口絵カラー四頁）……………583

第一節 街道の成立……………587

一、街道の成立……………587

五街道の整備 中山道の整備 北国街道の整備
大笹街道の整備 佐久甲州道その他の整備

街道整備と関所 街道と一里塚 街道と松並木

街道・並木の掃除丁場 街道と渡船
千曲川往還橋の架橋 蛇堀橋（与良大橋）の掛替

二、宿駅制……………637

宿駅制 御定賃錢 貫目改所

三、宿場のしくみ……………648

宿場のしくみ 問屋場とそのしくみ 休泊施設

宿場の統制

四、継立・助郷……………667

人馬の継立てと助郷制度 小諸宿と中山道四宿の

助郷 代助郷願いと歎願 貨物の争奪と中馬

貨物の争奪と入山道の公許 飛脚

第二節 参勤交代……………693

一、小諸藩主の参勤交代……………693

幕府の政治と参勤交代制度 牧野氏十代の参勤交

代の概要 二代牧野康周の参勤交代 三代牧野

康満の参勤交代

二、他の藩主等の参勤交代と通行……………714

中山道通行の参勤大名 加賀藩主の参勤交代

牧野御本家長岡藩主の御通行 御巡見使の通行

佐渡金荷の通行 囚人（唐丸籠）の通行

諸大名・公用者御通行の御馳走出役書留

和宮様の下向

第六章 教育と文化（口絵カラー四頁）……………747

第一節 教育……………751

一、藩校明倫堂……………751

教育制度 藩校の職制 教科目 藩校運営の

概要 年間行事と教授法 学科学規試験法及諸

則 学事上の諸制度 賞品授与の内規

小諸教育と梅花

二、庶民教育……………764

庶民教育の寺子屋 小諸の寺子屋と家塾

寺子屋・書塾・私塾の師匠

三、その他……………775

和算 関流を継いだ関五太夫 小諸における和

算の普及 算額 和算家小林茂吉 医学

薬物と薬法 種痘 痘瘡 小諸藩の種痘の歩

み 心学 性理学 天文学などその他

第二節 美術・工芸……………	810
一、書画・彫刻……………	810
書道 絵画 仏像 仏師	
二、工芸……………	821
刀鍛冶 鉄砲鍛冶	
三、建築その他……………	822
神社 寺院 社寺建築物 小諸城の城郭	
住宅 町屋	
第三節 文芸・娯楽……………	848
一、詩歌……………	848
文芸 和歌 俳句 狂歌 川柳	
近世の教育文化資料(人物編)	
二、芸能・歌謡……………	873
村芝居の禁制 八朔角力 雷電為右衛門	
荒堀に伝わる夜明し念仏 平原の廿五菩薩来迎会	
念仏講 ささら踊り 民謡 俗謡	
三、その他……………	915
晴れの日遊びの日 保養と湯治	
祇園祭	
第七章 宗教(口絵カラー四頁)……………	931

第一節 江戸時代の宗教……………	935
一、宗教の特色……………	935
近世の神道 近世の仏教 近世の修験道	
第二節 神道……………	942
一、城下町と近在の神社……………	942
城下町の神社 城下町近在の神社	
第三節 仏教……………	965
一、城下町と近在の寺院……………	965
寺院の動向 城下の寺院 近在の寺院	
第四節 民間信仰その他……………	973
一、修験道……………	973
城下と近在の修験道 頼る信仰へ	
二、家庭・地域信仰……………	976
村人の信仰	
三、講中信仰……………	977
講中信仰のいろいろ 小諸近在の講中	
四、土俗信仰……………	979
道祖神 その他の土俗信仰	

目 第一節 災 害……………987

一、風水害……………987

寛保の水害 与良川大水の事 洪水田畑破損・不作の事 御城下満水の事 出水川除破損御届 寛政の千曲川洪水 安政の大水

二、天明の浅間焼……………1017

天明以前の浅間山 天明三年の浅間焼

三、飢 饉……………1028

江戸時代の飢饉 天明の飢饉 天保の飢饉 明和の干害

四、火 災……………1042

正徳の平原大火 寛政の小諸の大火 家老木俣家の出火

五、その他……………1046

善光寺地震 疫病 痘瘡・麻疹・コロリの流行 首縊・行倒人

第二節 騒 動……………1055

一、芦田騒動……………1055

寛文の総検地と芦田騒動

二、天明騒動……………1057

天明の飢饉と天明騒動 御触書と百姓騒動取鎮

出動規定

三、水戸浪士事件……………1062

攘夷と開国の政争 水戸浪士事件

四、赤報隊事件……………1065

赤報隊事件の経過 事件の決着

五、小諸騒動……………1069

小諸騒動の発端と経過 騒動の発展 騒動の結末と藩政の大改革

六、その他の騒動……………1085

西牧騒動 川西騒動

付属資料 近世の西暦・和暦・干支一覽表……………1089

旧国名地図……………1090

度量衡と面積……………1091

近世の貨幣……………1092

江戸時代の時刻と方位表……………1093

(付図) 小諸城下町復元図……………別袋

史料等提供者名……………1093

あとがき……………1095

小諸市誌編纂委員会……………1098

奥がき……………1099